

## 甑岳

甑岳は 17,000 年前、韓国岳とほぼ同時期に形成された標高 1,301m の成層火山です。この山の非常になだらかな山頂が、上部が平たい甑(こしき)と呼ばれる米を蒸す道具に似ていることから甑岳と名付けられました。

### 公園を一望する景色

火口壁の周りの登山道は 1 時間ほどで歩くことができ、登山道からはこの地域を 360 度見渡す大パノラマの景色が楽しめます。南西にはえびの岳と六観音御池、南には硫黄山と韓国岳があります。北にはえびの市が見え、西には栗野岳がそびえています。晴れた日には、南南西の山々の彼方に鹿児島湾に浮かぶ火山・桜島を見ることができます。

### 山頂に隠れる湿原

甑岳の特徴は、火口内部に南九州で唯一の池塘があることです。傾斜が急なので注意が必要ですが、火口内部へは 10 分程度で下ることができます。火口壁のすぐ内側にうっそうと茂るアカマツの林を抜けると、春に赤みの強いピンク色の花を咲かせるミヤマキリシマ (*Rhododendron kiusianum*) の群落や他の花々が彩りを添えるススキの草原が現れます。夏には濃い緑色のススキの草原は、晩秋に近づくにつれて一面きらめく銀色に染まります。

草原の中央には池があります。ここではミミカキグサ (*Utricularia bifida*) というタヌキモ科の食虫植物や、コバギボウシ (*Hosta sieboldii*) という可憐な紫の釣鐘型の花を咲かせるキジカクシ科の植物など、湿地の環境を好む植物が見られます。青紫色の花を咲かせるハルリンドウ (*Gentiana thunbergii*) もこの日当たりが良く湿っている火口内部に生育していますが、この花は曇りの日には花弁を閉じています。